クォータリーレポート

# 気仙沼・南三陸だより

第６号　平成２５年９月
発行：気仙沼地方振興事務所

## 復興に向けてまちづくりの研修会が開催されました

（気仙沼保健福祉事務所）

５月29日，気仙沼保健福祉事務所で東京大学高齢社会総合研究機構の特任研究員・後藤純氏を講師に招き，「まちづくりと健康・医療・福祉の連携策について～コミュニティで暮らしを支える災害公営住宅の提案～」が開催されました。

研修会では，後藤氏が携わった岩手県釜石市平田地区のコミュニティケア型仮設団地などを例にとって，社会的に弱い立場の方が安心して暮らせるような今後の復興に向けて，い（医療・ケア）・しょく（職・食）・じゅう（バリアフリー住宅）の機能が揃った『まちづくり』について話しがありました。

また，ハード面だけでなく，それぞれの機関が連携して住民を支えるソフト面の整備が必要なことにも話しが及びました。

医療，介護に関しては，終末期ケアを含む在宅医療の連携や地域包括ケア体制について，暮らしについては，災害公営住宅入居前からコミュニティのデザインを意識した地域づくりを準備すること，そのデザインが実現するような住環境や交流スペース等を整備することで，ソフト面とハード面の調和が生まれ，住み良いまちづくりが実現するとのことでした。

また，講演終了後に希望者が集まり，意見交換会が行われました。

保健・福祉，産業，都市計画，建設等，それぞれの分野で現状と課題，その解決に向けた取組など，より良いまちづくりに向け熱心な議論が交わされました。

（まちづくりの研修会の様子）

（公演終了後の意見交換会の様子）

## 歯の健康のつどいが開催されました

（気仙沼保健福祉事務所）

６月９日，気仙沼市民健康管理センター「すこやか」において，第24回歯の健康のつどいが開催されました。

このイベントは，歯の衛生に関する正しい知識の啓発等を目的とし，毎年気仙沼市，気仙沼歯科医師会及び当所の共催で開催しているものです

当日は，まず，「よい歯の標語コンクール」と「8020※よい歯コンクール」の表彰式が行われました。

また，歯に関する相談やブラッシングコーナーのほ

か，バルーンアートやおやつクッキングなど，家族で楽しめる内容の催しも行われました。

さらに，昨年は震災の影響で実施できなかった手形作成コーナーが復活し，来場者の人気を集めていました。

当所では，健康運動指導士の藤野恵美氏を招き，親子・キッズダンスのイベントを実施するとともに，禁煙相談コーナーを設置し，市民の相談に応じました。

（キッズダンスのイベントの様子）

当日は「むすび丸」と「ホヤぼーや」も来場し，イベントを盛り上げてくれました。

約450人の市民の皆様にご来場いただき，楽しみながら歯の衛生と健康について考えていただけたと思います。

（ホヤぼーやとむすび丸）

※「8020」とは，読みは「ハチ，マル，ニイ，マル」で，平成元年に始まった「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動です。

「8020」のうち，「80」は男女を合わせた平均寿命（当時は，男性75.9歳，女性81.8歳）のことで「生涯」を意味します。

## 「有害鳥獣対策プロジェクト（平成25年・春）」を実施しました

（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

気仙沼・本吉地域では近年野生鳥獣による農作物被害や生活環境被害が深刻になっています。そこで，気仙沼地方振興事務所農林振興部では，気仙沼市などの関係機関と合同で，管内でもニホンジカやカモシカによる被害が顕著である気仙沼市上八瀬地域をモデル地区に指定し，「有害鳥獣対策プロジェクト」を，平成21年度から実施しています。

現在，このプロジェクトでは，有効な鳥獣害対策を実施する上で必要となるニホンジカなどの有害鳥獣の生態や活動範囲を調べるため，田植えの時期や農作物の収穫の時期に，ライトセンサス調査（夜間でもニホンジカの目が光るという特性を利用し，その目に強力な懐中電灯の光を当て，その活動範囲の調査を行うもの）や，鳥獣被害の報告があった地域に暗視カメラを設置して，定点観察調査を行っています。

春の調査では，6月11日にライトセンサス調査を実施したところ，3地点で4頭のニホンジカが確認されました。また，暗視カメラによる定点観察調査では，6月10日から7月5日の期間に，12地点に5日間ずつ設置して実施したところ，7地点でニホンジカが確認されました。

今後は，春の調査結果を参考にしながら，秋の収穫時期に併せて，改めてライトセンサス調査や暗視カメラによる定点観察調査を実施し，春と秋でニホンジカの活動範囲が変わるのかや，前年度までの調査結果と変化があるのかなどを調べ，より正確な生態等が把握できるように調査することとしています。

（暗視カメラにより観察されたニホンジカ）

## 「気仙沼リアスの森BPP建設工事安全祈願祭」が開催されました

（気仙沼地方振興事務所　農林振興部）

7月25日，気仙沼地域エネルギー開発㈱が計画していた木質バイオマスによる熱電供給施設「気仙沼リアスの森BPP（バイオマスパワープラント）」の建設工事安全祈願祭が，気仙沼市港町で行われました。

BPPは間伐材等の木質バイオマスを原料として発電するもので，発電した電力は東北電力㈱に売電するとともに熱を近隣のホテルに販売する予定で，来年3月からの稼動を目指しています。

間伐材は森林組合や素材生産業者の他，個人の林家から購入しますが，買取価格の半分は市内の仮設商店街等で使用できる地域通貨「リネリア」で支払われます。

山に放置されることが多かった間伐材を有効活用することが可能で，間伐が進んで森林の整備が促進されるとともに地域経済の活性化が図られることが期待されています。

（安全祈願祭の様子）

## 南三陸町で長ねぎの病害虫防除現地検討会を行いました

（本吉農業改良普及センター）

8月12日，南三陸町で JA 南三陸，全農みやぎ，出荷先担当者を交え，長ねぎの病害虫防除現地検討会を開催しました。今年度から南三陸町入谷地区を中心に，15戸，2団体が新たに長ねぎ栽培（約2ha）に取り組んでいます。

7月の天候不順から病害の蔓延が懸念されていましたが，現地検討会で7か所のほ場を巡回したところ，最小限の発生に抑えられ，順調な生育が確認されました。軟白部は，現在20～25cm程度で，早ければ9月中に出荷基準の30cmに達する見込みです。

現地検討会の冒頭で，普及センターから，今後発生が心配されるさび病や軟腐病対策について情報提供を行いました。生産者から，使用する薬剤や散布時期など多くの質問が出され，熱意の感じられる有意義な現地検討会となりました。

今後も，月1回の現地検討会だけでなく，病害虫防除を中心とした技術指導を継続的に行い，南三陸町の高品質な長ねぎ生産を支援していきます。

（長ねぎ現地検討会の様子）

## 岩手県と宮城県の漁業士交流会が開催されました

（気仙沼地方振興事務所　水産漁港部）

岩手県漁業士会大船渡支部と宮城県漁業士会北部支部の交流会が，東日本大震災後初めて8月22日に宮城県気仙沼合同庁舎で開催されました。

この交流会は，平成11年に両支部の抱える様々

なテーマについて情報交換を行いその成果を生産現場に活かすことを目的に，毎年1回開催してきましたが，震災後は，漁業の復旧作業を優先したため延期してきました。

今年も震災の復旧・復興の途上ではありますが，それぞれの復旧・復興状況の情報交換をしたいとの声が上がり，再開することになりました。

第13回目にあたる今回の交流会では，両支部の漁業士14名が震災の日から現在に至る状況を報告した後に，漁業種目毎に現況報告や課題，対策案などを話し合い参考となる意見が多数出ました。

（交流会全景）

岩手県の吉浜地区では，震災で1台だけ残ったワカメ養殖施設のワカメを使って種苗生産を行い，その種苗を全員で利用し，3年を目処に協業による養殖を行っている話や，宮城県の戸倉地区では，国のがんばる養殖復興支援事業を活用し，養殖再開を希望する漁業者全てを再開させた話等があり，有意義な交流会となりました。

（交流会での報告の様子）

これを機会に今後も漁業士同士が日々の情報交換等を行い，さらなる復旧・復興のリーダー役となることが期待されています。

## 田んぼの生き物観察会が開催されました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

7月3日，南三陸町入谷地区で，南三陸町入谷小学校の 3 年生の児童を対象に，南三陸米地産地消推進協議会による田んぼの生き物観察会が開催されました。この観察会は，水田やその周辺で生息している生き物の様子を実際に観察し，稲の生育する様子と生き物との関係を考えることにより，地域で生産されるお米の安全性と環境保全の大切さを子ども達に実感してもらうことを目的としています。

当日は，ナマズのがっこう事務局長の三塚氏を講師としてお招きし，田んぼ周辺の水路等で網を使って採集したカエルやイモリ，ドジョウなどの生き物について説明して頂きました。参加した児童達は目を輝かせながら生き物の生態等について学んでいました。また，観察会終了後には，南三陸米のおにぎりの試食があり，田んぼの大切さを感じてもらえたようでした。

（田んぼの生き物観察会の様子）

## 南三陸ポータルセンターがオープンしました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

南三陸町志津川地区の仮設商店街「南三陸さんさん商店街」隣接地に，「南三陸ポータルセンター」が設置され，8月1日，オープニングイベントが開催されました。

当日は，関係者と南三陸町の子供たちがテープカットを行った後，記念にハナミズキを植樹してオープンを祝いました。

この施設は，木造平屋の建物と大型仮設テントで構成されています。

木造平屋の建物は日本アムウェイ社から寄贈されたもので，東北地方の木材を使用していますが，復興状況に応じた土地の利用に柔軟に対応できるよう，移築可能な構造となっています。愛知県清洲市から寄贈された大型テントと併せて一般社団法人南三陸町観光協会が管理運営を行います。

「南三陸ポータルセンター」は南三陸町の新しい交流の拠点として，集会や会議など，地域にお住まいの方々が多目的に利用することができます。また，教育旅行の受け入れや各種行事，体験型講座など，町外との交流の拠点として大きな役割を果たすことが期待されています。

（南三陸ポータルセンターの様子）

## 第62回気仙沼みなとまつりが開催されました

（気仙沼地方振興事務所　地方振興部）

8月10日と11日の2日間，三陸復興国立公園の指定を記念して「第62回気仙沼みなとまつり」が開催されました。気仙沼みなとまつりは航海の安全と大漁を祝う祭りで，今年も多くの来場者で賑わいました。

初日は，田中前大通りで街頭パレードや「はまらいんや踊り」が行われました。街頭パレードでは，愛媛県新居浜市の「新居浜太鼓台」が特別参加し，長さ12mの巨大なみこしが，会場を大いに盛り上げました。続いて行われた「はまらいんや踊り」では，バンドの生演奏とともに約2,600人が参加し，各々趣向を凝らした踊りを披露しました。

2日目は，内湾で3年ぶりに復活を果たした太鼓の「打ちばやし大競演」とともに，気仙沼湾内の海上から打ち上げられた花火とサンマ船が放つサーチライトが夜空を彩りました。

また，気仙沼小学校のグラウンドでは縁日が行われ，設営されたステージではスペシャルライブも催されました。

（気仙沼みなとまつりの様子）